

特集

選挙権年齢が18歳以上に！ 変わり行く『大人』の定義

(第2回)



▲ 韮崎市高校生議会に参加した高校生の皆さん

上段左から菊池琢斗さん、浅川綾太さん、長井真也さん、秋山涼乃さん、橋本未来さん、森健一郎さん、猪股璃紅さん、田中瑠乃輔さん、下段左から望月凜香さん、阿部杏香さん、佐藤杏さん、石原大輔さん、甘利慎之助さん、浅川留奈さん、葛西桃菜さん、望月南海さん、中島瑠威さん

公職選挙法の改正により、昨年、選挙権年齢が20歳以上から18歳以上へと70年ぶりに引き下げられました。これにより、昨年の7月に行われた参議院議員通常選挙は、18歳、19歳の皆さんが参加した初めての選挙となりました。

昨年の広報にらさき7月号では、初めての選挙に参加する韮崎高校の生徒に、選挙や政治に対する考えや意見取材し、皆さんに紹介しました。

韮崎市高校生議会

今回、市では、選挙権年齢が18歳となったことを契機として、「韮崎市高校生議会」を8月1日（火）に開催しました。これは、これからの社会を担う高校生にとって、より住みやすく快適なまちづくりを推進していくため、高校生が自ら、まちづくりに対しての希望・要望や自分の夢を語ってもらう機会をつくることにも、市政への関心を高める

ことによって、社会参加を促進することを目的としています。

今まで、小学生や中学生を対象とした「こども議会」、女性を対象とした「女性議会」を開催してきましたが、高校生を対象とした議会は、今回が初めてとなります。

当日は、市内の高校に通う高校生と市内在住の高校生が17名参加し、議長を韮崎高校の甘利慎之助さん、副議長を韮崎工業高校の石原大輔さんが務め、他の15名の皆さんが議員を務めました。

高校生議会では、高校生議員が市執行部に対して質問を行い、市長や教育長が答弁し、詳細については担当課長が答弁するという、通常の議会と同様の方法で行われました。

高校生議員の皆さんからは、日ごろから疑問に感じていること、韮崎市の人口問題や雇用、交通、財政状況などの問題点について大人顔負けの質



▲一般質問を行う高校生議員

問があり、高校生の政治への関心・意識の高さを感じることができました。

今後は、今回参加いただいた高校生議員の皆さんと市長が直接意見交換をする「まちづくりミーティング」の開催を予定しています。

選挙権が18歳に引き下げられた今、韮崎市を背負って立つ若者に期待しています。





▲選挙についての出前授業の様子



▲投票用紙を交付

葦崎高校生徒会役員選挙

～実際の選挙と同じ機材を使用して～

7月11日（火）、葦崎高校の生徒会役員選挙に併せて、県の選挙管理委員会の職員が、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられたことや、選挙の仕組み、意義についての選挙講座を行いました。

また、7月12日（水）には、実際の選挙で使用する投票箱や投票用紙などを使用し、生徒会役員を決める選挙が行われました。正副会長候補者の推薦人が投票立会人として見守る中、投票箱が空である確認から始まり、案内や受付、用紙の交付など、全ての作業を葦崎高校選挙管理委員会の生徒が行い、投票管理者を務めた選挙管理委員長の投票終了宣言まで、生徒約710名が一票を投じる臨場感あふれる選挙となりました。

開票作業も自動読取分類機や計数機を使用し、選挙管理委員会の生徒が、一連の選挙事務を体験しました。



▲本物の投票用紙に記入



▲投票箱を開けて、投票用紙の取り出し

葦崎高校選挙管理委員長

3年6組 小野稜真さん

今回、実際の選挙で使用する、投票箱や投票用紙などを使用した生徒会選挙ができたことは、今から選挙を行う自分たちにとって、非常に良い経験となりました。



投票や開票が実際にどのように行われているか知らなかったもので、今回体験したことを実際の選挙に活かしたいです。今後、若者の投票率が上がっていくことを願っています。



▲自動読取分類機を使用して、票の仕分け